



「生きるって…」教職員が劇で訴え ～第33回鹿水高祭

■第33回鹿水高祭が11月18・19日、同校で開催され、そこで上演された同校教職員による劇団『海演隊』の創作劇『海に生きる～港町に生まれ育った兄弟物語～』が生徒や観客から大反響を呼びました。

物語は、かつお節工場を経営する祖父の孫として生まれた兄弟が、波瀾万丈の幼少期、青春期を乗り越え、兄弟の漁師として成長していく姿を描いた人情溢れる内容です。兄弟からの「一生懸命に生きることの大切さ」を訴えるメッセージで幕を閉じると、会場は観客席からの惜しみない拍手に包まれました。

脚本と演出を手掛けた山神正文教頭は「今年は東日本大震災など、大災害の多い年だった。この劇から“人間は一人では生きていけない”ということを生徒たちに伝えたい」と話していました。



スポーツ振興についての議論深める ～第47回鹿児島県体育指導委員研究大会

■県体育指導委員研究大会が10月29日、市民会館で開催され、県内各地から体育指導委員や関係者など約400人が参加しました。体育指導委員は、各地域でのスポーツ指導やスポーツイベントの企画・運営に携わるなど、すべての市民がスポーツに親しむことができる環境づくりを推進する役割を担っています。

シンポジウムでは、本市体育指導委員会の竹中和幸委員長と吉嶺友博さんが本市での取り組みを紹介したあと、吉嶺さんが独自に開発したという洗濯バサミを使ったゲーム(写真)などを紹介し、会場を盛り上げていました。

片道12キロ『勉学の道』を歩く ～小原國芳先生『勉学の道』歩こう会

■桜山地区公民館主催の『小原國芳先生「勉学の道」歩こう会』が10月29日に行われ、桜山校区から小・中学生と保護者あわせて約80人が参加しました。歩こう会は今年で3回目の開催となります。

『勉学の道』は、東京にある玉川学園の創立者である故小原國芳先生が12歳のとき、実家(現在の南さつま市坊津町久志)から桜山尋常高等小学校(現在の桜山小学校)まで通学した12キロの険しい山道です。

歩こう会参加者は久志から出発し、小原國芳先生顕彰の碑が建っている桜山小学校までの12キロを3時間ほどかけて歩きました。険しい山道を歩くことで、小原先生の学問への情熱と不屈の精神を身をもって感じ取っていたようでした。



故郷を想い新曲『ふるさと枕崎』を披露 ～『nutmeg帰省ライブ』ロータリー市民交流会

■枕崎ロータリークラブ主催の市民交流会『nutmeg帰省ライブ』が11月20日、南浜館で開催され、約250人が心に沁みる澄んだ歌声に聞き入りました。

nutmegは東京吉祥寺を拠点に活動する別府出身の同級生デュオで、南浜館でのライブは昨年12月以来となります。今回は故郷のことを歌ったバラード調の新曲『ふるさと枕崎』を含む11曲を熱唱しました。二人は「新曲は枕崎の風景、故郷への想いを込めて作った歌。いつも地元の方々の応援に感謝しています」と話していました。

なお、チケット売上金の一部は風の芸術展実行委員会に寄付されました。



チャリティーバザーで広がる支援の輪 ～森産婦人科『子育て支援チャリティーバザー』

■毎年恒例の医療法人ラフォーレ森産婦人科主催の子育て支援チャリティーバザーが11月13日、同産婦人科で「ぎずな がんばろう日本!」をテーマに開催されました。

会場では、使わなくなった衣料品などのバザーのほか、ネイルアートやマッサージコーナーなどもあり、たくさんの家族連れでにぎわっていました。また、本紙10月号『子育て応援団』で紹介した『森もりっ子クラブ』もクラブ発足1周年を記念してバザーに参加。自分たちで集めた衣料品を会員自らが店頭で売っていました。(写真)

今回の益金は、心と身体に障害をもつ子どもたちを支援する『おぎゃー献金』と東日本大震災の被災地に義援金として寄付される予定です。



P T A活動について活発な議論 ～平成23年度鹿児島県P T A活動研究委嘱公開

■県P T A活動研究委嘱公開が11月19日、市民会館で開催され、県内各地の関係者約800人が参加し活発な意見交換が行われました。

研究発表では「家庭・学校・地域が連携し、心豊かでたくましい子どもを育成するP T A活動」をテーマに、別府小学校P T Aの白澤修一会長と枕崎中学校P T Aの小原土朗会長が、子どもの安全確保やあいさつ・声かけ運動など、日ごろの取り組みを発表しました。

講演では、むっちゃんこと猪俣睦彦さんが『笑って健康、笑いでやる気』と題し、郷土愛と家族愛の大切さを得意のギターと鹿児島弁の歌で訴えるなど、笑いの絶えない講演となりました。



別府中駅伝OBが4連覇 ～第59回市内一周駅伝競走大会

■市内一周駅伝競走大会が11月6日、市役所をスタート・ゴールとする市内19.1キロを周るコースで行われ、小学生から一般まで26チーム、190人が健脚を競いました。高校・一般の部では、別府中駅伝OBが4連覇を達成しました。結果は次のとおり。

【高校・一般の部】①別府中駅伝OB②継つなぐA③厚生会アスリート【中学生男子の部】①別府中学校②桜山・立神サッカー部③枕中男子バスケ部【女子総合の部】①枕中女子バスケ部【小学生男子の部】①別府野球スポーツ少年団 ②継つなぐJr.



古民家改築から移住・交流を考える ～古民家再生!から始まる里山の暮らし体験事業

■都市住民などを受け入れる移住・交流の推進による地域活性化を目的とした(財)地域活性化センターの移住・交流推進支援事業『古民家再生!から始まる里山の暮らし体験事業』がNPO法人子育てふれあいグループ自然花の主管で、今年7月から10月にかけて4回に渡り木口屋集落で開催されました。遠くは霧島市など県内各地から延べ32人の参加があり、実際に空き家を利用して屋根や水まわりの補修など、古民家改築の技術を体験しました。

10月22日に行われた報告会(写真)では、事業参加者や集落民、行政など32人が参加する中、体験での苦労や発見を踏まえ、農作業体験型修学旅行の受け入れや地域資源を活用した取り組みの可能性など、活発な意見が交わされていました。